

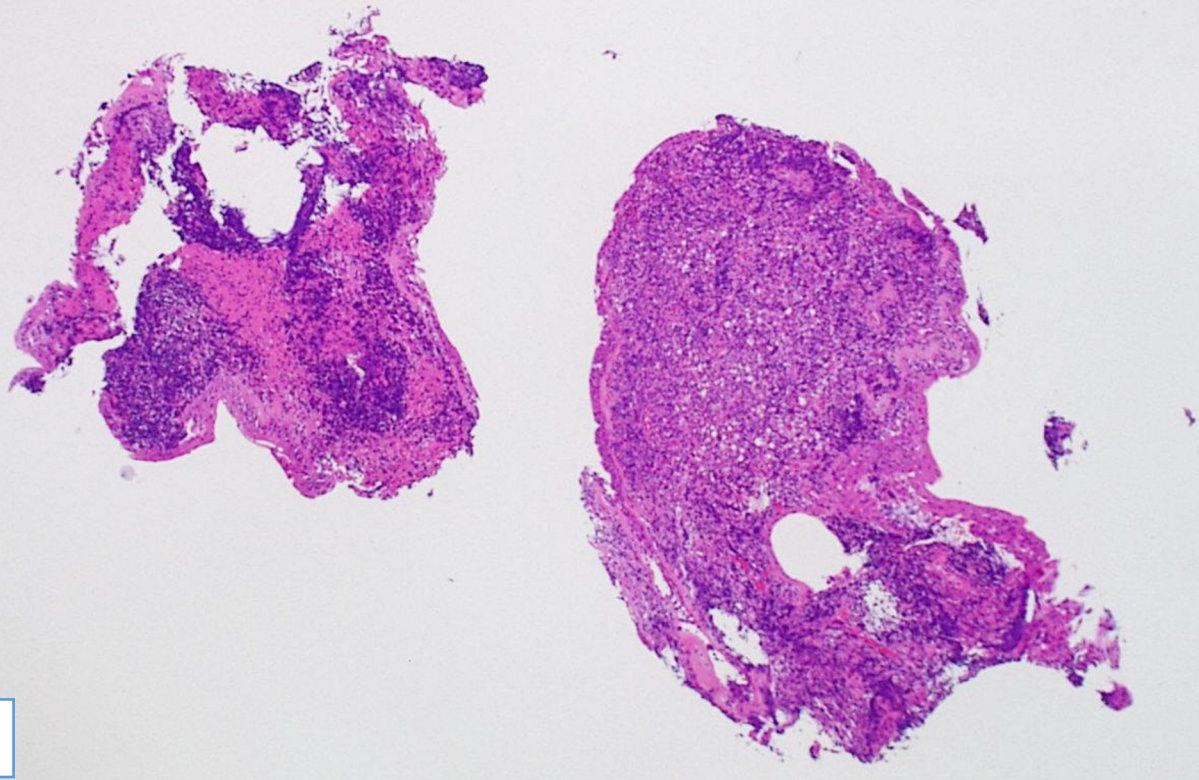
国立病院機構沖縄病院

症例2解説

病理組織診断 Diffuse large B cell lymphoma, GCB type

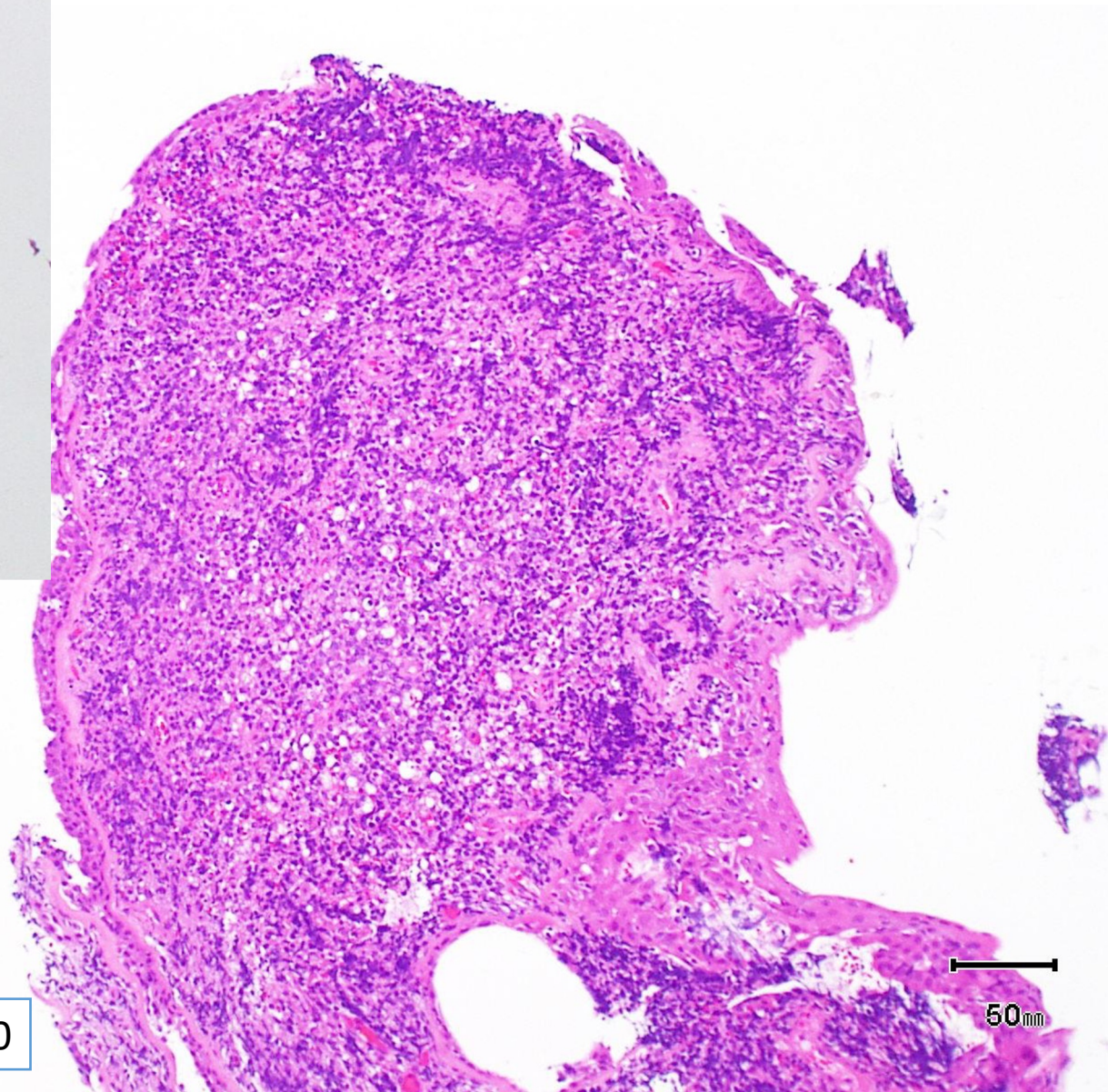
GCB : Germinal center-cell-like

気管支粘膜下に異型細胞が接着性乏しく、びまん性に増殖しています。異型細胞は裸核状で、小型の核小体を有します。異型細胞はLCA(+), CD20(+), CD3(散在性に+, 反応性のT細胞と思われる), AE1/AE3(-), SALL4(-)、Ki-67 labeling index : 50%程度。bcl-2(+), bcl-6(+), MUM1(-), TdT(-), Cyclin D1(-), CD23(-), CD10(-)である。形態と合わせて、DLBCL, GCB typeと考える。



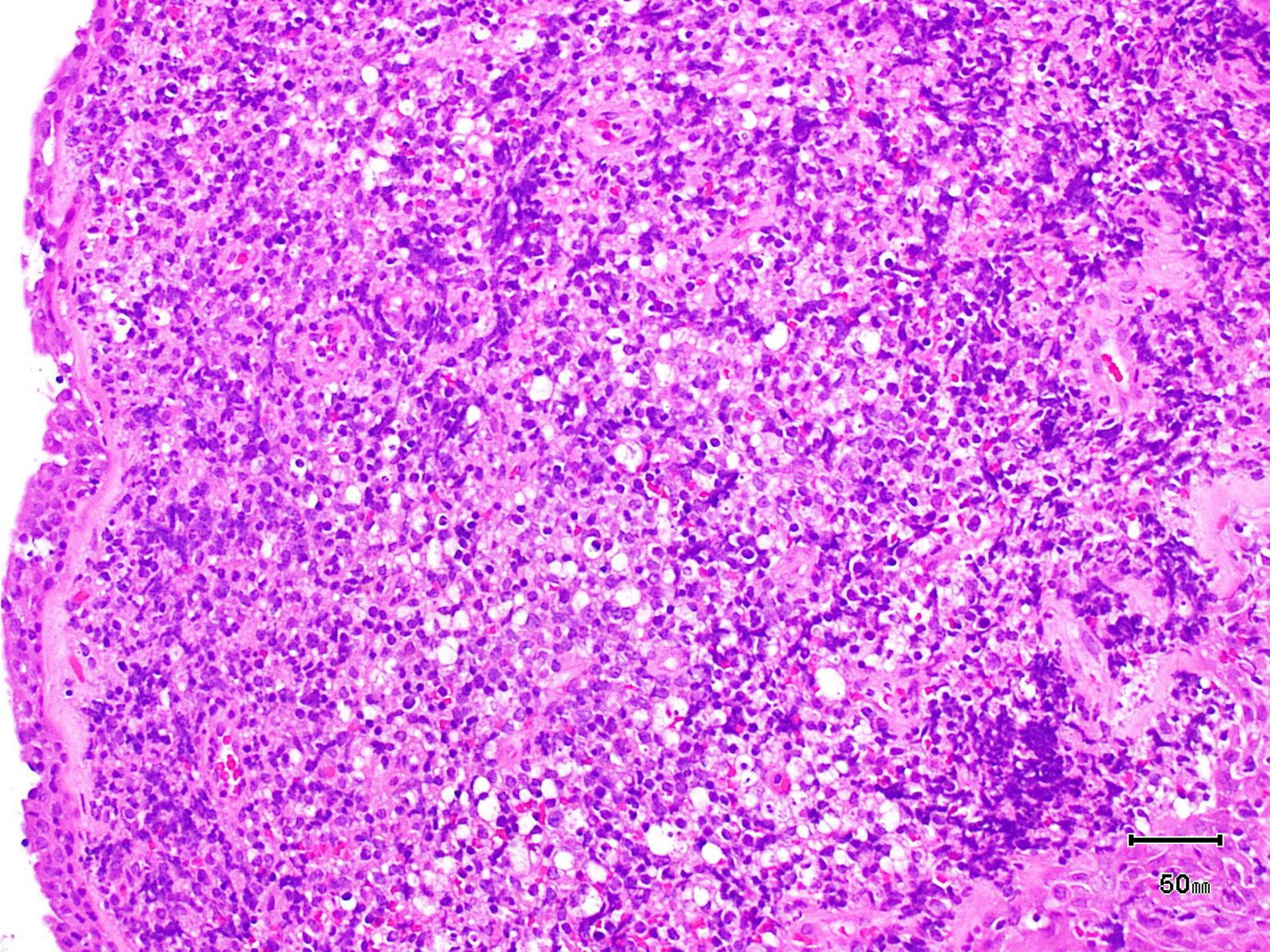
x4

HE染色



x10

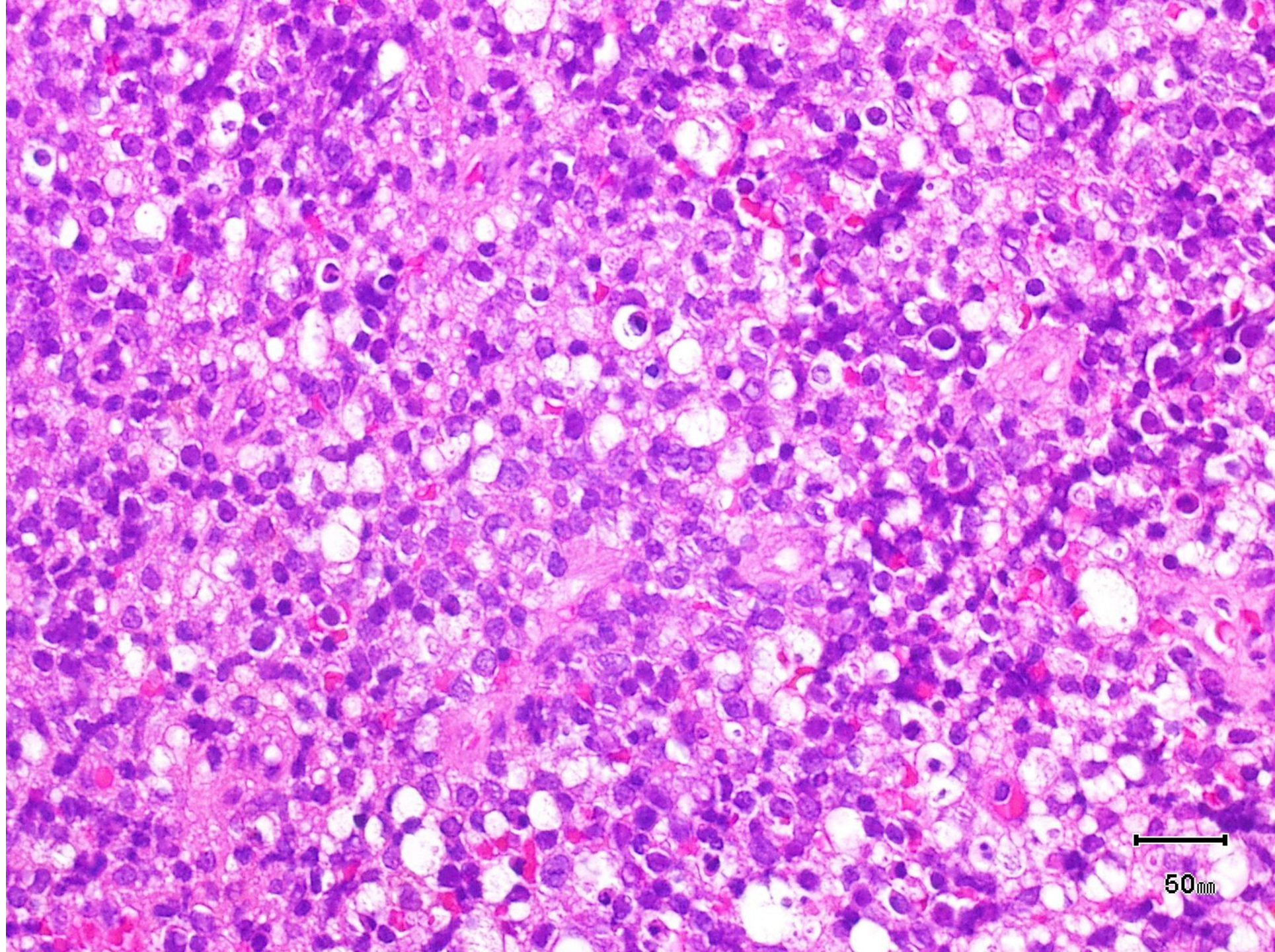
50 μ m



x20

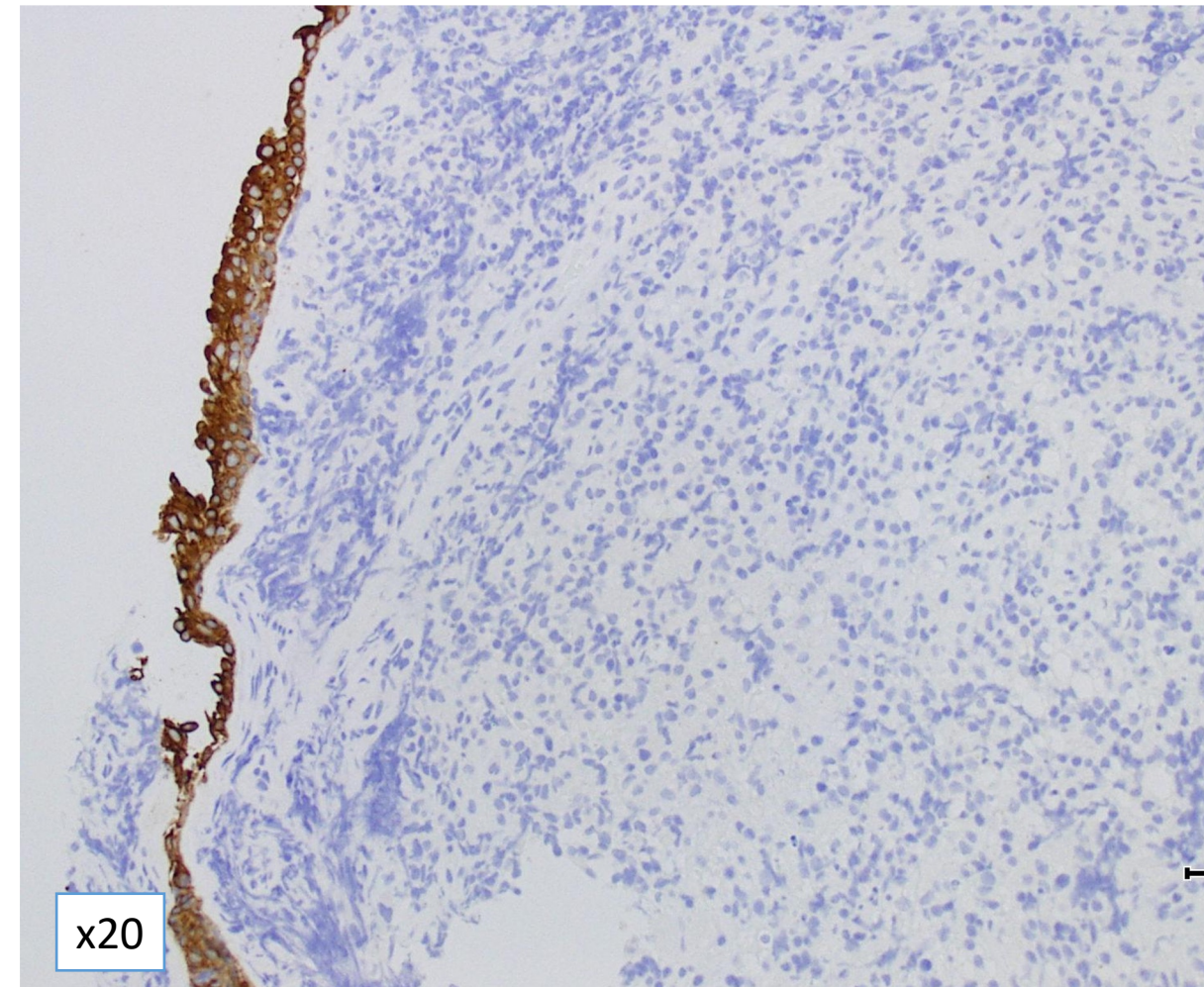
50mm

x40

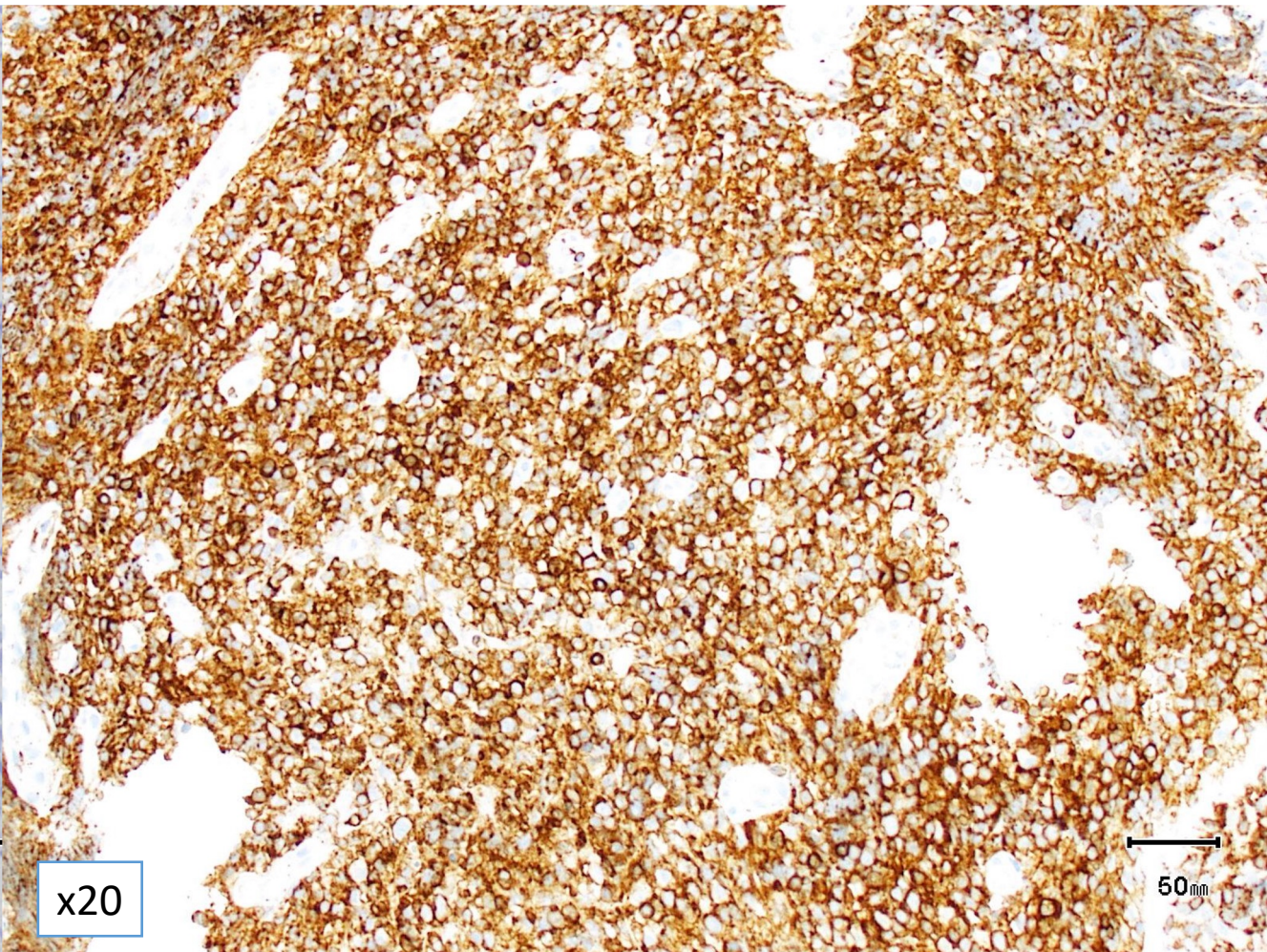


50µm

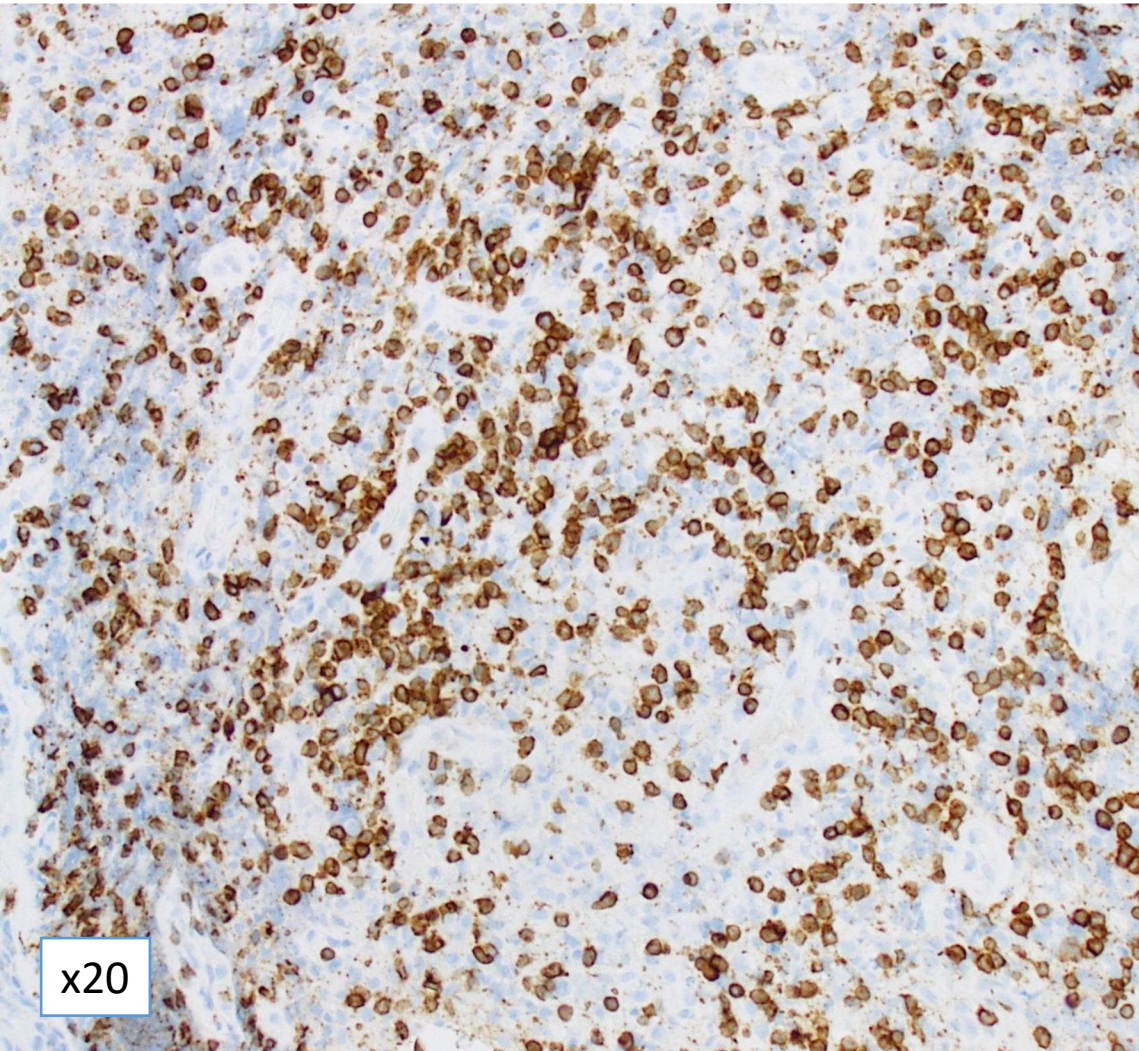
免疫組織化學染色



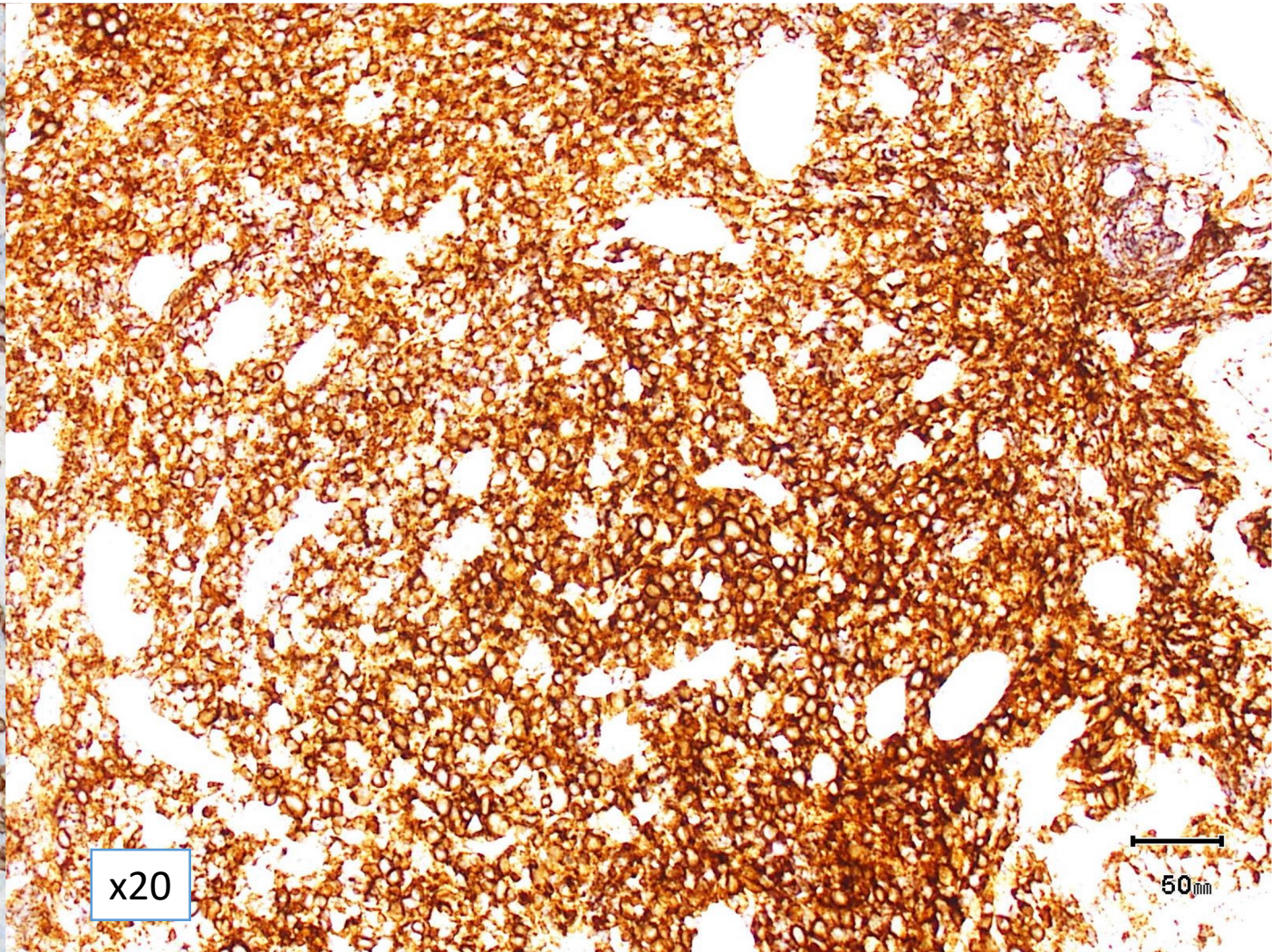
AE1/AE3



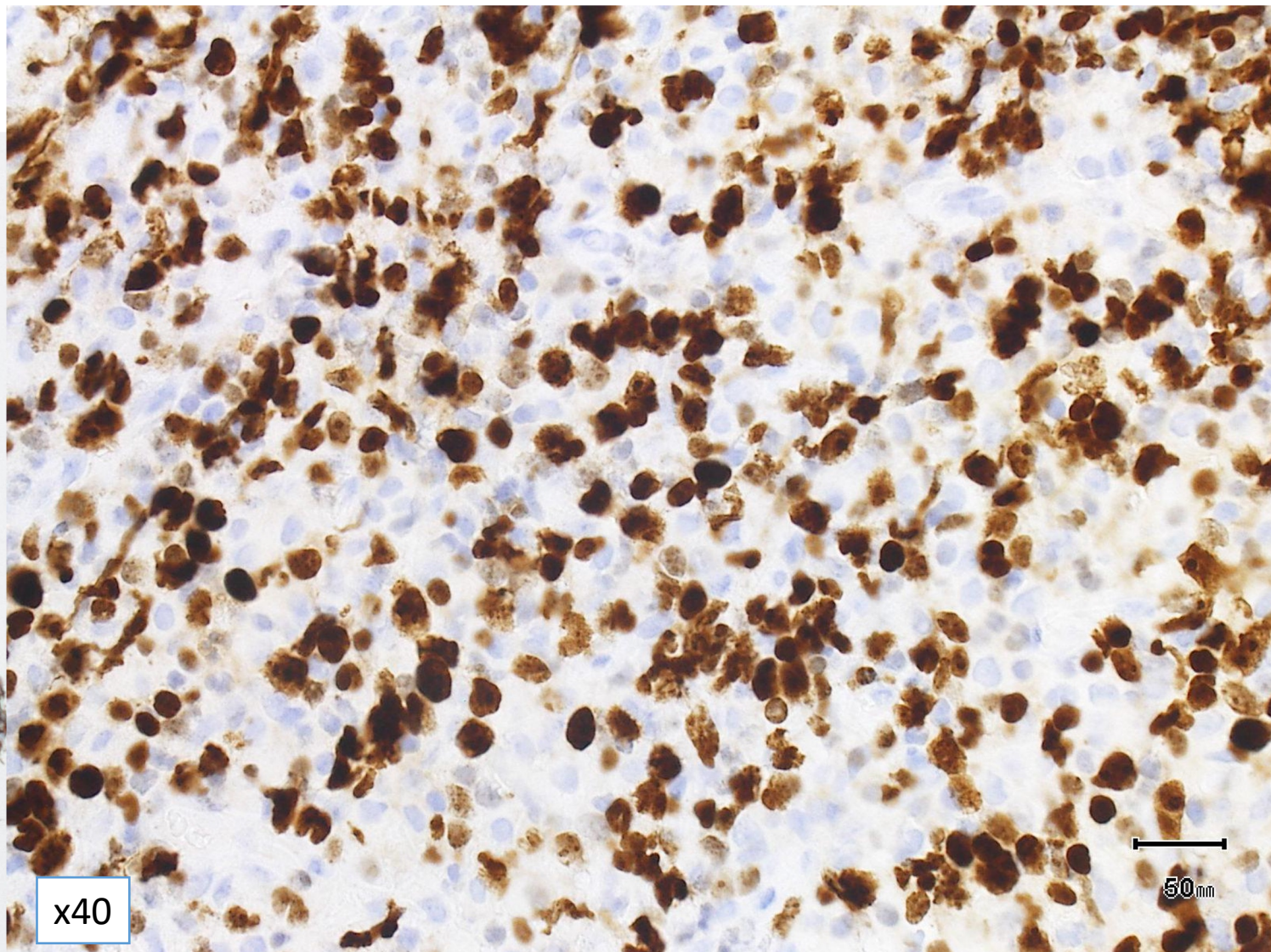
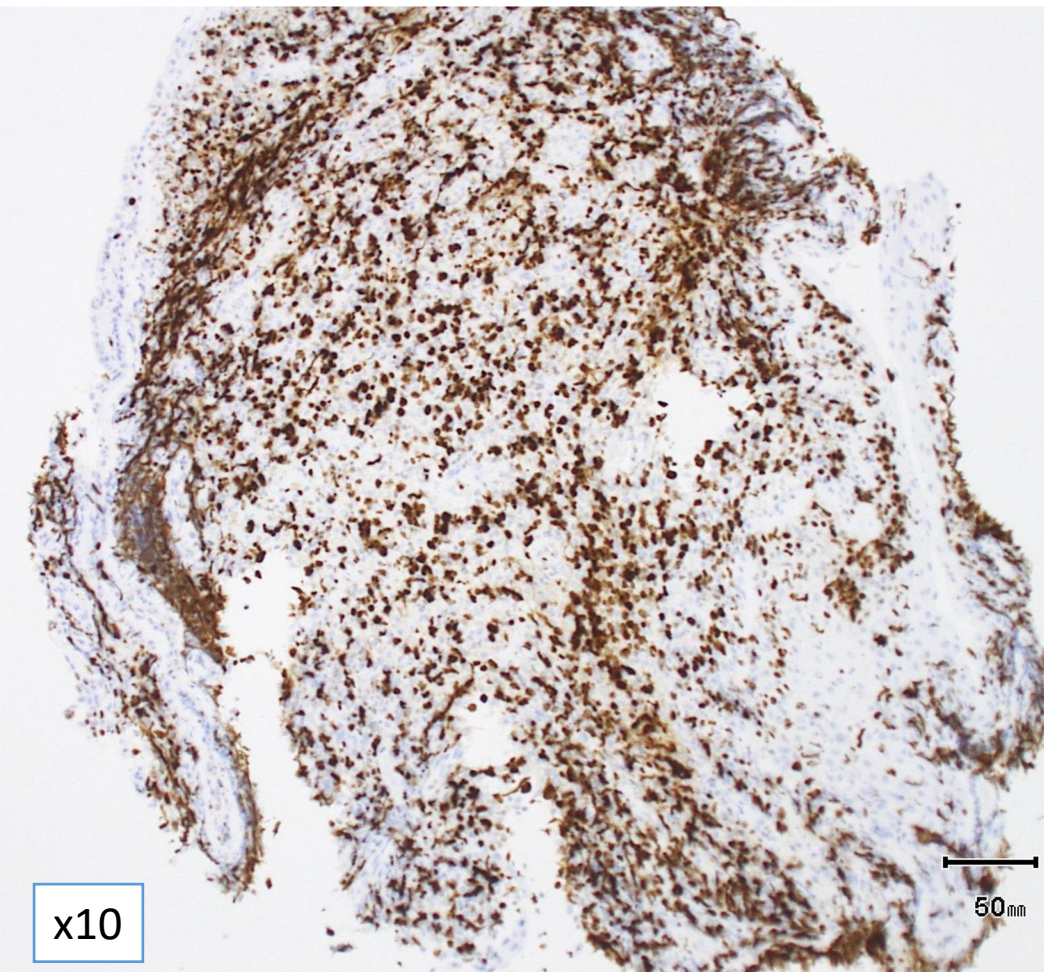
LCA



CD3



CD20



Ki-67 (MIB-1) labeling index : 50%程度

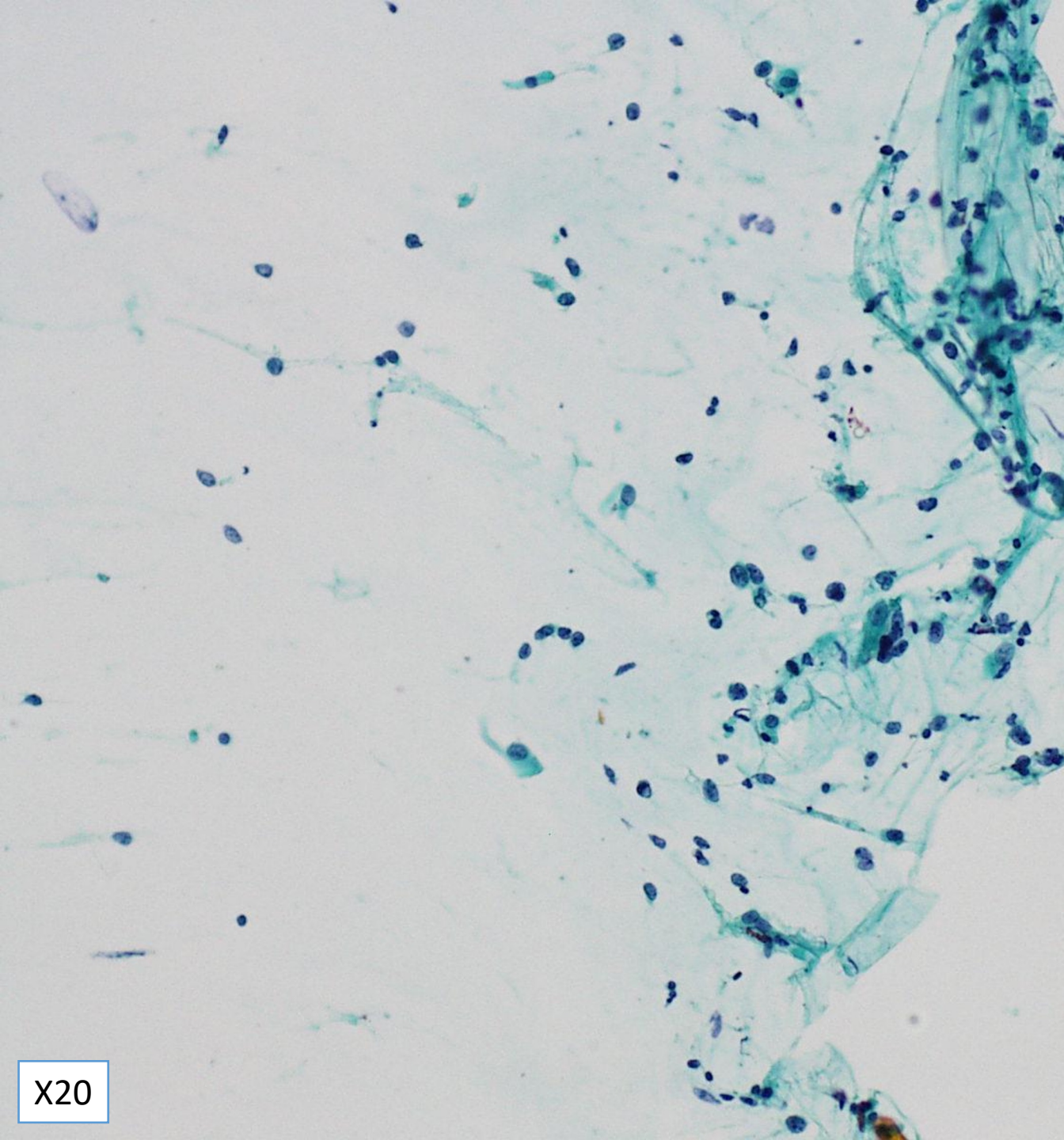
免疫染色結果

陽性	陰性
LCA	AE1/AE3
CD20	CD3（反應性T細胞）
MIB-1（50%程度）	MUM1
bcl-2	TdT
bcl-6	Cyclin D1
	CD23
	CD10
	CD30
	EBER-ISH

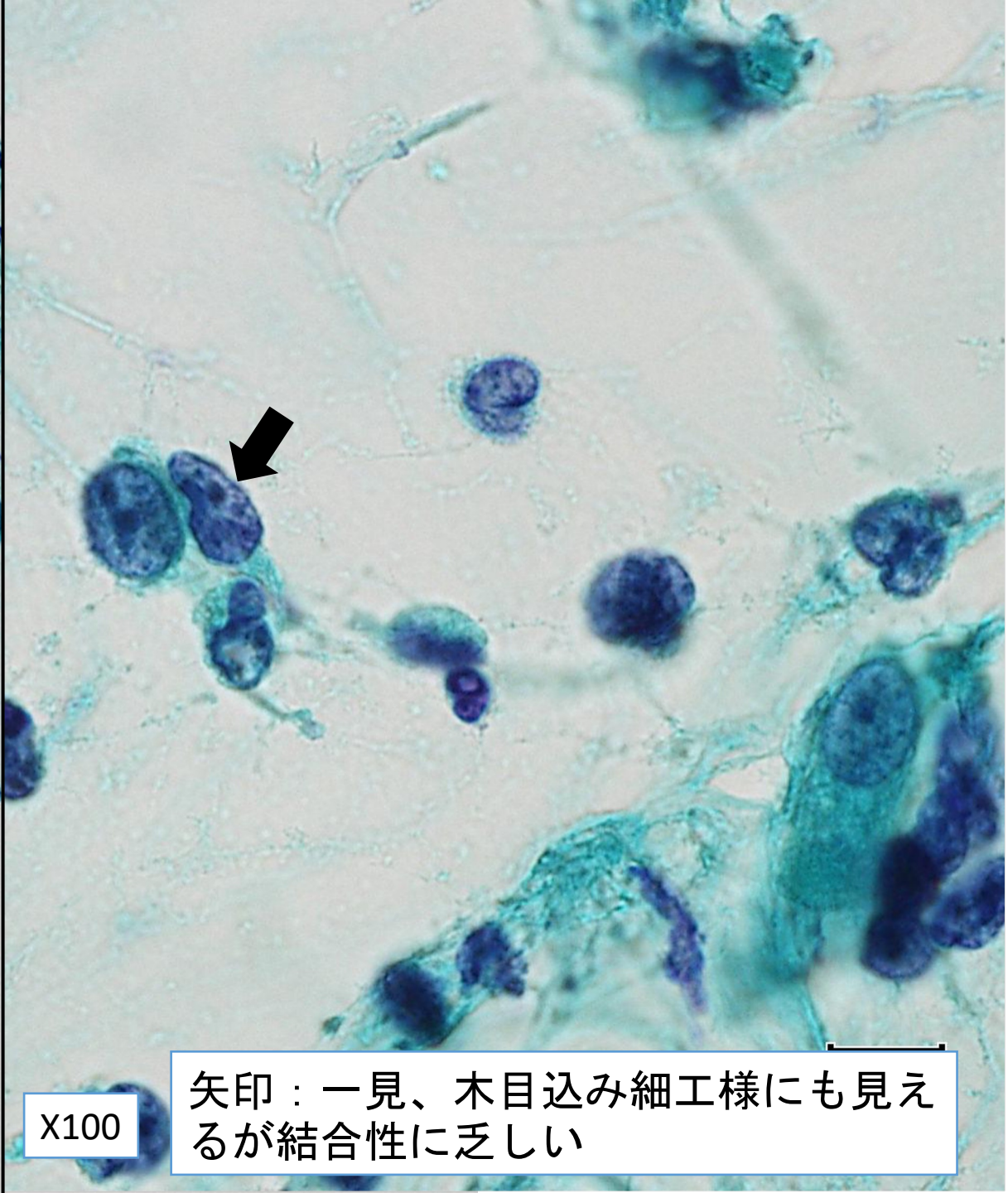
細胞診断 Atypical cells 判定 Suspicious

【所見】

検体は気管支擦過標本で4枚採取され、塗抹細胞量はやや少なめです。成熟リンパ球を認める背景にN/C比の高い大型のリンパ球様の異型細胞を孤立散在性に複数認めます。大きさからは小細胞癌があげられますが、上皮性結合は確認できず、鑑別として悪性リンパ腫があげられます。またこれとは別に大型の異型細胞もごく少数認めます。組織での確診を希望します。

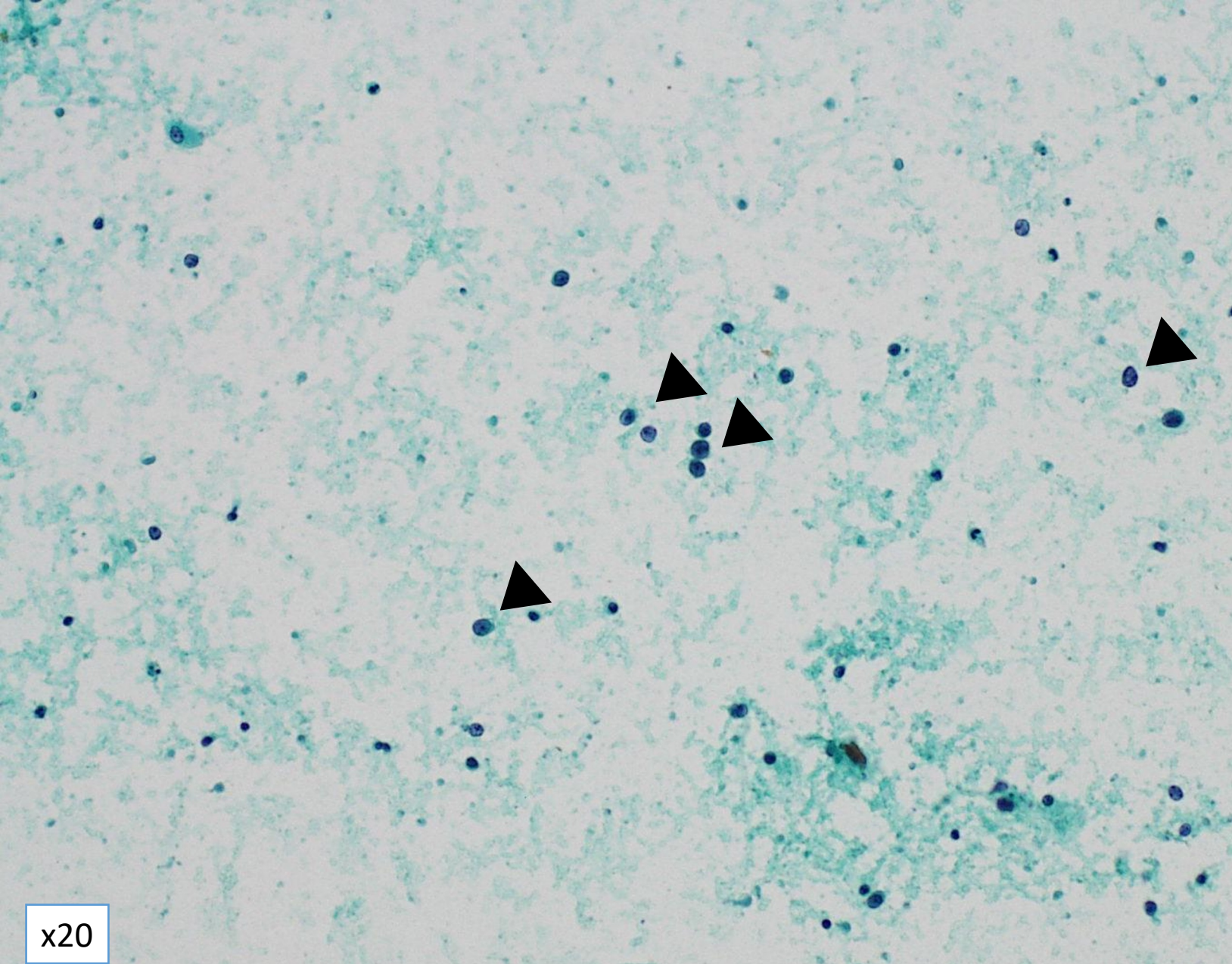


X20



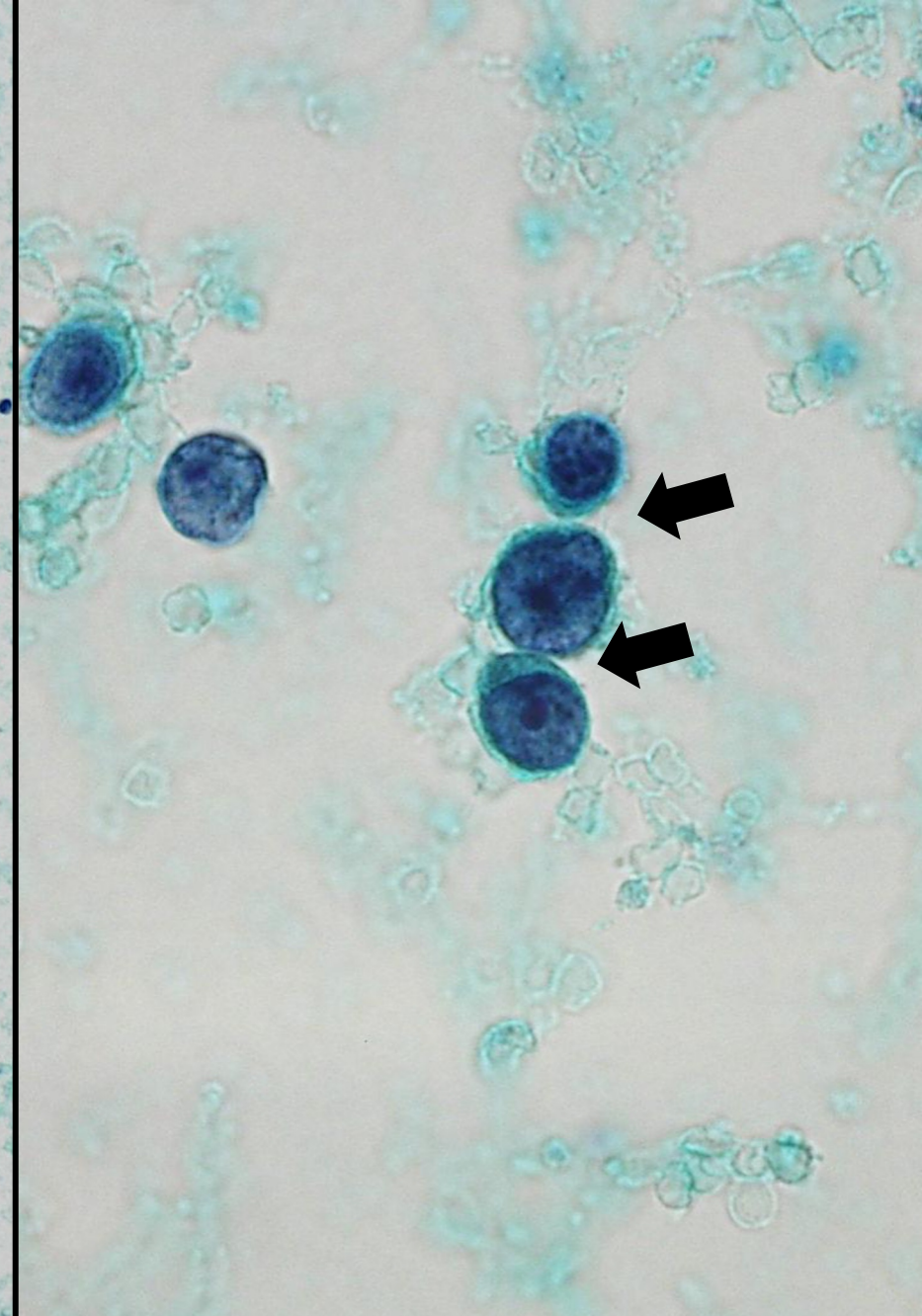
X100

矢印：一見、木目込み細工様にも見えるが結合性に乏しい



x20

矢頭：症例によっては、小細胞癌でも孤立散在性にも出現することもある。



x100

矢印：結合性は見られない

Diffuse large B cell lymphoma

- 肺原発悪性リンパ腫は、肺原発腫瘍の0.3-0.4%、節外性リンパ腫の3%以下と比較的稀な疾患である¹⁾。
- 肺リンパ腫の70-80%はMALT lymphomaで、気管支随伴リンパ組織から発生したと考えられ、比較的予後は良い。残り大部分はdiffuse large cell B-cell lymphomaでhigh-gradeに相当し、やや予後が悪い^{1),2)}。
- 肺原発の悪性リンパ腫はしばしば肺小細胞癌との鑑別に苦慮することもある^{1),3),4)}。孤在性の異型細胞を認めた場合は、悪性リンパ腫を含む非上皮性腫瘍も念頭に入れる必要がある。

参考文献

- 1.熊取屋理加, 他 : 肺原発悪性リンパ腫の一例, 日本交通医学. 2008; 62: 99-100
2. Piña-Oviedo S, Weissferdt A, Kalhor N, Moran CA. Primary pulmonary lymphomas. Adv Anat Pathol. 2015 ;22:355-75
- 3.岡本明子, 他 : 気管支擦過細胞診あるいは喀痰細胞診で悪性が示唆された肺の悪性リンパ腫の3例, 日本臨床細胞学会. 2022; 61: 266 (会議録)
- 4.内田尚孝, 他:肺小細胞癌との鑑別を要した肺原発MALTリンパ腫の1例, 日臨外. 2010 : 71; 374-378